

第 1 章 総 論

1－1 はじめに

1－2 文化財の保存・活用の基本理念

1-1 はじめに

高岡市歴史文化基本構想の第2部「保存・活用編」では、第1部「高岡市の文化財編」で示した本市の歴史文化の概要と文化財の置かれている現状を踏まえ、今後どのように文化財を守り育て地域づくりに活かしていくかを検討する。その上で、望ましい保存・活用のあり方について方針や計画の骨子を示していく。

1-2 文化財の保存・活用の基本理念

将来像

市民が郷土に対する誇りを持ち、ものづくりの結晶が輝くまちへ

基本方針

文化財の保存・活用を通して

- 郷土教育を推進し、市の歴史や風土を学びとる。
- ものづくり文化の洗練を目指す。
- 市民一人ひとりが高岡の『人・ものづくり・文化』を担っている意識を高める。

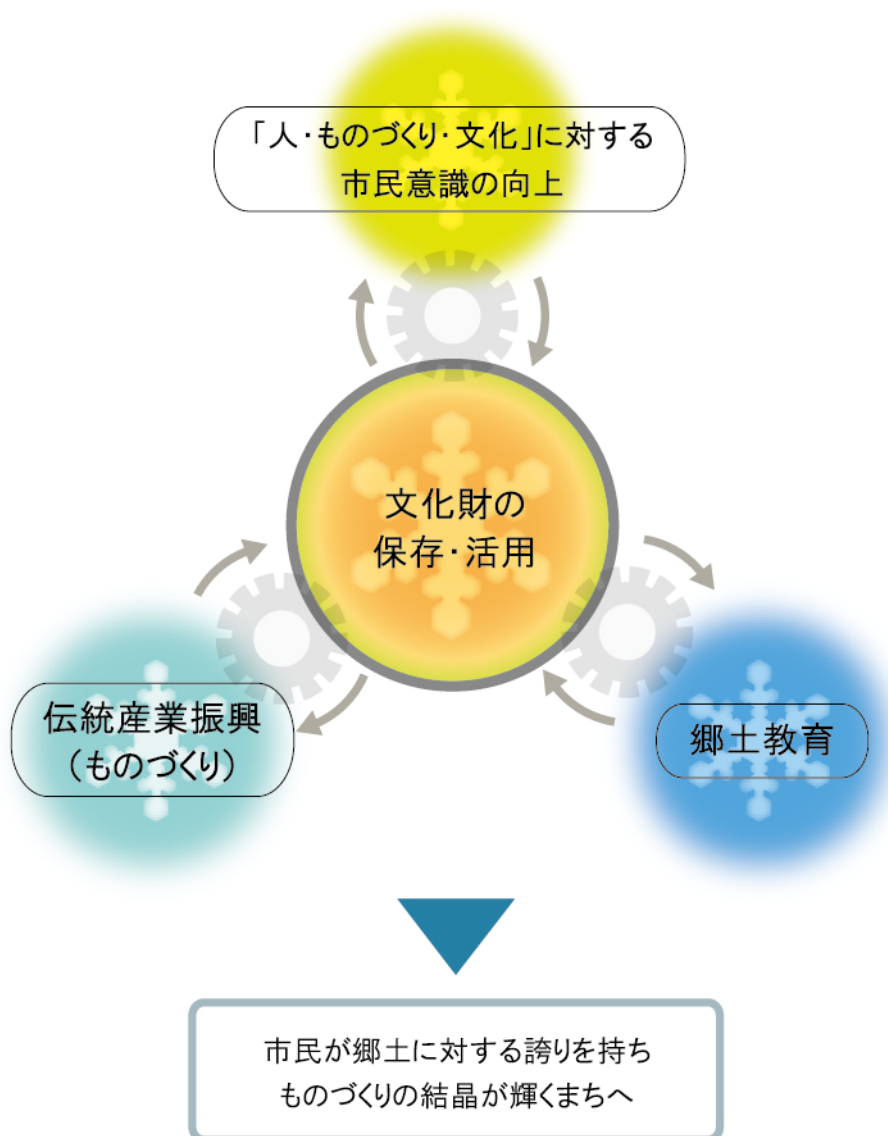
高岡市の文化財の多くは、ものづくりに関連する歴史を背景としており、先人達のものづくりに対する高い意識（“心”）と、たゆまぬ研鑽の積み重ね（“技”）の結果生み出されてきたものである。言い換えれば、高岡市の文化財は、ものづくりの文化とともに歩んできた土地柄が生み出した様々な形の結晶であるといえる。

これまで受け継がれてきた高岡市のものづくりは、先人達の知恵や伝統的な技術として確実に継承され、現在の高岡の基幹産業の一端に受け継がれてきた。高岡市の風土によって育まれたものづくりの文化は、これからのまちづくりにも欠かせない大切な宝であり、これらをより良く活かすためには、地域の歴史的・文化的背景を市民に

深く理解してもらうことが必要である。

文化財は、この歴史的・文化的背景への理解を促す重要なヒントとなり得るものである。高岡市の歴史や風土は、文化財の保存・活用を通して、郷土教育における正しい理解と、伝統産業振興における知恵や技術の継承へと受け継いでいくことができる。

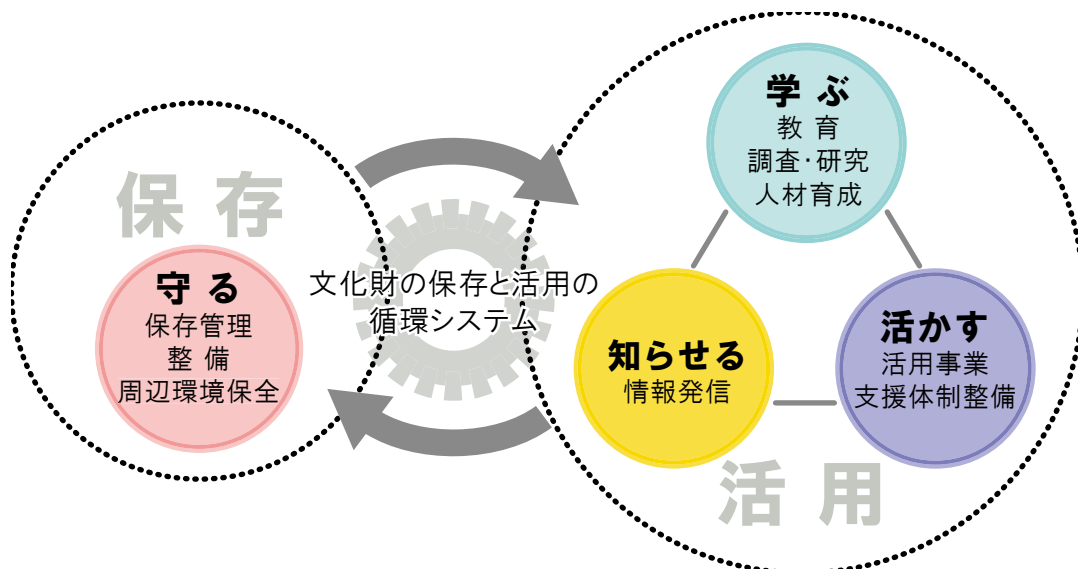
高岡市の歴史文化基本構想は、文化財の保存・活用を通して、歴史や風土を学び、ものづくり文化をさらに洗練していくことを目指す。また、市民一人ひとりが高岡市の「人・ものづくり・文化」を担っているという意識を高めていくことを通して、市民が郷土に対する誇りを持ち、ものづくりの結晶が輝くまちを実現していくことを将来像とする。



高岡市歴史文化基本構想の考え方

○文化財の保存・活用の仕組み

文化財の保存・活用にあたっては、“保存”と“活用”のどちらかに偏った取り組みではなく、相互関係を保ちながら進めていくことが重要である。文化財を保存管理や整備等によって適切に守り育むためには、学ぶ（教育や人材育成）、活かす（活用事業や支援体制の整備）、知らせる（情報発信）ための土壌を一体的に充実させていくことが必要である。保存、活用の循環体制が整うことで、より高いレベルの保存・活用体制が構築できるとともに、下図に示したような高岡市の伝統産業（ものづくり）や郷土教育の活発化、更には市民意識の向上などの相乗効果が期待される。



文化財の保存・活用の仕組み 概念図

